

導入事例 Case Study

病院内連絡用に内線電話ソリューション「ホワイトオフィス」を導入 院内外で同一の内線番号を利用でき利便性が向上、コスト削減も実現

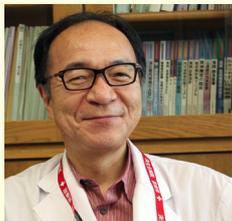


新潟市の中核病院として 24 診療科目、427 床を有する社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 新潟県済生会 済生会新潟第二病院（以下、済生会新潟第二病院）では、内線電話ソリューションの更新にあたりソフトバンクの「ホワイトオフィス」を導入、院内外で同一の内線番号が利用可能となり、利便性が向上しました。また「おとくライン」と組み合わせた通信システム全体の刷新により年間約 30%の通信コスト削減を達成しました。



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 新潟県済生会
済生会新潟第二病院

効果と課題



社会福祉法人
恩賜財団 済生会支部
新潟県済生会
済生会新潟第二病院
院長
吉田 俊明氏

課題 院内は無線 LAN、院外は携帯電話を使い分ける内線ソリューションを利用していたが、対応する携帯端末が製造中止になり代替機の入手が困難になっていました。

効果 「ホワイトオフィス」へ切り替えたことでソフトバンクの携帯端末を内線として利用、対応端末の製造中止によって代替機が入手困難になる心配がなくなりました。

課題 以前の内線ソリューションは院内では内線番号、院外では「090」「080」などで始まる携帯番号を使い分ける必要があり不便でした。

効果 「ホワイトオフィス」では院内外を問わず同一内線番号で通話できるようになり利便性が向上しました。

課題 内線ソリューション更新においてはコスト削減を重視し導入検討を行いました。

効果 「ホワイトオフィス」と固定電話サービス「おとくライン」を合わせて導入することで、固定電話と携帯端末間および携帯端末どうしの通話が無料になり大幅なコスト削減を実現しました。

導入の背景 ●●●●●▶ 内線ソリューションの対応端末が製造中止、代替機が入手できない

地域の中核病院として急性期医療、地域医療支援を提供する済生会新潟第二病院では、医師や看護師、幹部職員の緊急連絡手段として携帯端末を使い、院内は無線 LAN 通信による内線通話、院外では通常の携帯電話の通話が行えるソリューションを導入していました。

病院内の内線連絡用に PHS を導入する医療機関は多いのですが、院外にいるスタッフに緊急連絡するためには携帯端末が

別途必要になります。複数の携帯端末を所持する不便さを回避するため、1 台の携帯端末で院内外の通話を可能にするソリューションを選びました。ところがこのソリューションに対応する携帯端末の製造が中止され、代替機の入手が困難になりました。そこで新たな内線電話ソリューションへの移行を検討しました。

選択のポイント・・・▶ 内線ソリューションと固定電話の総合的な刷新案

新たな内線ソリューションについても引き続き 1 台の携帯端末で院内外の通話が可能で、かつ導入コストの削減を希望していました。そこでソフトバンクから「ホワイトオフィス」と「おとくライン」を組み合わせた通信システム全体を見直すプランが提案されました。

従来の内線ソリューションでは、院内での発信は 4 桁の内線番号を使い、院外では「090」「080」などで始まる通常の携帯番号で発信するため、2 つの電話番号を使い分ける必要がありました。発信者は、まず 4 桁の内線番号で相手呼び出し「通信エリア外か電源が切れています」といったアナウンスが流れ

ると相手は院外にいると判断し、改めて携帯番号へ発信をやり直すというものでした。

これに対し「ホワイトオフィス」は院内外どこにいても内線で通話できるため 1 つの内線番号だけで運用できます。またソフトバンクは内線システム構築と携帯端末の提供、さらに固定電話の「おとくライン」導入まで 1 つの窓口で対応できる利便性があり、各種サービスを合わせて導入した場合のコスト削減効果が最も大きかったため、ソフトバンクの提案を採用しました。

導入の概要と効果・・・▶ 通信コスト全体を年間約 30%削減

2014 年 3 月より「ホワイトオフィス」および携帯端末「202SH」を 122 台導入して、医師や緊急連絡が必要な看護師、病院事務の管理職に配布しました。連絡したい相手が院内外のどこにいても 4 桁の内線番号で呼び出し可能になったことでかけ直す手間がなくなり、緊急時の対応が迅速化しました。

「電話システムの変更により使いやすさは大きく向上しました。以前の携帯端末は外線利用時の音声が悪くありませんでしたが、ソフトバンクに切り替えて聞き取りやすくなったと感じています。内線番号でつながるので病院外に出る機会の多い医師や管理職にとって、迅速に連絡がつくという安心感があります」と吉田 俊明氏は語ります。

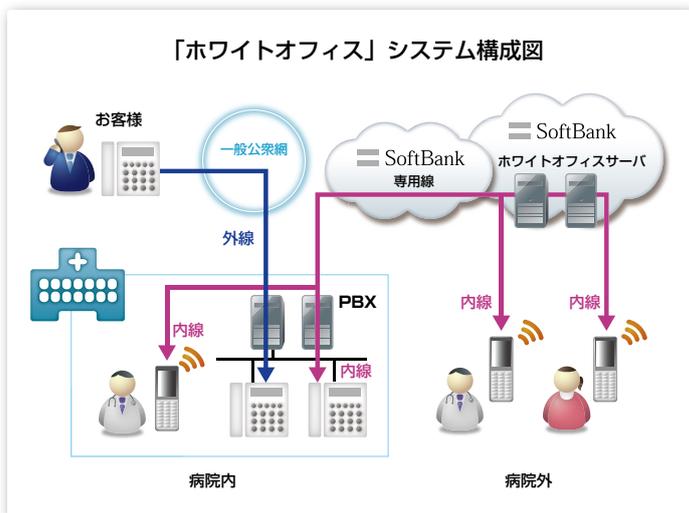
固定電話と携帯端末間および携帯端末どうしの通話が無料になることで通信費が抑えられ、さらに「おとくライン」による

固定電話の通信費削減効果も加わり、年間の通信コストは約 30%も削減できました。

また、以前利用していた携帯端末は通信キャリアとの契約を解約し病院内の無線 LAN による通話に限定した内線電話専用機として外出のない事務スタッフへ配布して既存資産の有効利用に努めています。

導入したサービス

「ホワイトオフィス」はオフィス内の内線通話が社内・社外問わず 24 時間定額料金で利用できるサービスです。大掛かりな設備投資が必要なく低コストで内線通話サービスの導入が可能です。「おとくライン」はソフトバンクの通信設備を使った直取型電話サービスです。ソフトバンクの専用設備またはお客様でお使いの既存 PBX 設備を利用できるため、新たな設備の構築や初期投資の必要がなく容易に導入できるのが特長です。



今後の展開・・・▶ 病院内に設置した無線 LAN の有効活用を目指す

同院ではオーダーリングシステムや画像管理、予約システムなど多くの業務で IT 化を進めています。今後は電子カルテシステムの導入に向けて「医師や看護師が患者の情報を入力する際の業務負担と生産性向上のバランスをどうとるか現在検討を進めているところです」と吉田氏は語ります。すでに病院内には

無線 LAN 環境が整っているため、モバイル端末を使った電子カルテの利用や来院者に無線 LAN を無料開放するサービスなど、既存通信インフラのさらなる活用 に意欲的に取り組んでいます。

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 新潟県済生会 済生会新潟第二病院

本社：新潟県新潟市西区寺地 280-7

設立：1991 年 7 月 1 日

従業員数：785 名（2015 年 4 月 1 日現在）

概要：昭和 2 年新潟市田町に開設された新潟診療所を前身に、24 診療科目、427 床を持つ地域の中核病院として運営しています。2002 年 8 月には新潟県内初、全国済生会病院でも初となる地域医療支援病院の承認を受け、近隣の病院や診療所を支援する活動を続けています。

URL：http://ngt.saiseikai.or.jp/



※パンフレット記載内容は、2015 年 8 月現在のものです。